

特別支援学校における保護者面談に関する 教員研修の効果の検討

—グループによるロールプレイを通して—

○大脇知子

岡村章司

(兵庫県立阪神特別支援学校)

(兵庫教育大学大学院)

KEY WORDS : 保護者面談 教員研修 特別支援学校

I. 問題と目的

保護者・教員間のコミュニケーションにおいて、両者はともに困難を感じており、保護者・教員間の連携強化のためのトレーニング・プログラムを含めた、保護者と教員双方への心理学的なサポート実践が期待される(三田村、2011)。障害を持つ子どもの保護者と連携し支援するには、教員が保護者の考え方やおかれている状況を理解して対応することが重要である(小林、2008)。保護者の状況を理解するには、まずは保護者の話を傾聴する、情報を収集するといった面接の基本的スキルを学ぶ研修プログラムの検討が必要と考える。

そこで本研究では、特別支援学校の教員を対象に面接の基本的スキルの講義と演習を取り入れた全5回の研修を実施し、その効果を検証することを目的とした。

II. 方法

1. 対象

A 県立B 特別支援学校の校内課題研修会への参加教員17名(男性2名女性15名)であった。本研究開始前に、参加教員全員に書面にて研究成果の公表について了承を得た。

2. 手続き

- 1) 期間: X年12月21日からX+1年2月23日まで全5回行った。
- 2) 研修スタッフ: 講義の実施と演習のファシリテーターを筆者が務めた。
- 3) 研修の内容: 研修プログラムは、原口・井上(2010)を参考にして作成した。保護者支援の必要性や面接スキルなどの内容を講義と演習で構成した(Table 1)。
- 4) 全体的な手続き: 講義を15分、演習25分、振り返り10分間の60分で行った。演習は1グループ3名で、事例をもとに5分間の保護者面談のロールプレイを行い、全員が保護者役・教員役・観察者役全てを行った。面談ロールプレイ後の振り返りでは、振り返りシートを使ってグループ内で教員役の良い点・改善点を共有し、その後それらの情報を全体で共有した。

5) 標的行動

傾聴行動(相槌・表情の変化・体の動き・繰り返し)、事実の聞き取り行動(オープンな質問・クローズな質問・事実を聞き取る質問・肯定的場面を聞き取る質問)、保護者の言動を強化する行動(要約言い換え・強化する)の3つとした。

6) 評価方法: 5分間のロールプレイの1回目と4回目を、10秒間インタバル記録法(30インタバル)により観察した結果に基づいて生起回数を算出した。分析対象は、5回全てに参加した4名とし、B, C, Dは同じグループであった。また、研修後に自由記述によるアンケートを実施した。

III. 結果

Table.1 研修プログラム

回	参加者の目標	内容	講義	演習
1	事例を使って、保護者への聞き取りの実態を把握する	研修についての説明と事例検討	研修についての説明	事例をもとに面談のロールプレイ・グループごとに振り返り全体で共有
2	保護者支援の必要性を知る 自分の保護者アセスメントの状況を確認する	保護者支援の必要性とアセスメント	保護者支援の必要性・保護者アセスメントの重要性・アセスメント項目の3分類・事実と解釈	アセスメントシートへの記入・グループごとに不足項目を振り返り全体で共有
3	話を聴く	保護者の話を傾聴する態度	傾聴と共感・オープンとクローズの質問・具体性(GW1H)	事例をもとに面談のロールプレイ・グループごとに振り返り全体で共有
4	事実を聞き取る・保護者の肯定的発言を強化する	保護者の話を聞き出す	ABC分析・強化・分化強化(肯定・否定の対応)について	事例をもとにABCの枠を活用して面談のロールプレイ・グループごとに振り返り全体で共有
5	研修内容を踏まえて面接できる	事例検討のまとめ	今までの研修内容のまとめ	事例をもとに面談のロールプレイ・グループごとに振り返り全体で共有・質問紙への記入

傾聴行動、事実の聞き取り行動、保護者の言動を強化する行動の生起回数を Fig. 1、Fig. 2、Fig. 3 に示した。

傾聴行動は、AとDは全ての項目が増加した。Bは表情変化が増加し、Cは繰り返しが増加した。Aは事後アンケートで「保護者の悩みに共感し、良い関係作りに生かしたい」と記述していた。

事実の聞き取り行動は、B, C, Dは肯定的場面を聞き取るオープンな質問が増加し、質問内容は事実を掘り下げる具体的内容に変化した。一方で、Aは事実を聞き取るクローズな質問が増加したのみであった。Cは事後アンケートで「質問のオープン、クローズを考えながら質問できた」と記述していた。

強化行動は、Cは全ての項目が増加した。Aは要約・言い換えが増加し、BとDは強化が増加した。Cは事後アンケートで「傾きや事実を拾い上げること、できたこと・できていることを意識して対話できそう」と記述していた。

事後アンケートでは、Bから「グループを固定したことでグループ内の変化を感じた」、Cから「回数を重ねることが必要」、Dから「保護者支援の基本的なことを知り、実践練習できたことがありがたかった」との記述がみられた。

Table.2 傾聴行動の生起回数

	相槌		表情変化		体の動き		繰り返し	
	1回目	4回目	1回目	4回目	1回目	4回目	1回目	4回目
A	5	12	1	8	7	12	0	3
B	5	5	3	8	5	3	0	0
C	23	17	7	7	10	9	2	3
D	7	12	0	1	0	1	0	4

Table.3 事実の聞き取り行動の生起回数

	オープンな質問		クローズな質問		事実聞き取り質問		肯定的場面質問	
	1回目	4回目	1回目	4回目	1回目	4回目	1回目	4回目
A	1	1	2	5	2	6	0	0
B	2	4	6	3	8	4	0	3
C	7	8	9	3	12	3	4	8
D	1	4	8	6	9	5	0	5

Table.4 保護者の言動を強化する行動の生起回数

	要約・言い換え		強化	
	1回目	4回目	1回目	4回目
A	0	1	1	1
B	0	0	0	2
C	0	4	0	6
D	1	1	0	5

IV. 考察

本研究では、特別支援学校の教員を対象に保護者面談に関する研修を行った結果、傾聴行動、事実の聞き取り行動、強化する行動の増加がみられた。標的行動を明確に示した上でロールプレイを行い、参加者の振り返りを促したことが有効であったと考えられた。また、同じグループで繰り返し学ぶことの効果が示唆された。【謝辞】本研究は、JSPS 科研費 JP15K04556 の助成を受けた。

(OHWAKI Tomoko, OKAMURA Sho-ji)